

平成28年度 南アルプス市社会福祉協議会事業報告書

《総務部門》

1 会務の運営

① 会議の開催

名 称	内 容	開催回数・日付
正副会長会議	理事会、評議員会の対応について他	4回
理事会・評議員会	第1回 平成27年度事業報告一般会計決算他	5月26日
	第2回 慈恵寮特定目的積立金の名称について他	8月23日
	第3回 平成28年度資金収支第1次補正予算・新定款制定他	12月20日 H29年
	第4回 評議員候補の選任	3月1日
	第5回 事業計画他	3月22日
監事会	平成27年度定期監査	5月16日
評議員選任・解任委員会	第1回 評議員の承認	3月1日
庁内会議	会長、局長、次長、課長、施設長、所長による全体会議	12回
チーム担当者会議	研修チーム会議	2回
苦情解決第三者委員会	平成27年度の苦情・ヒヤリハット報告会(72件)	1回

② 役員の研修、事業等参加協力

名 称	開 催 日	参 加 者
街頭募金	10月3日	理事 14名
各地区運動会	9月～10月	理事・評議員 30名
市社会福祉大会	11月13日	理事・監事・評議員 30名
県社会福祉大会	11月29日	理事・監事・評議員 12名
社会福祉法人制度改革セミナー	11月16日・12月13日	理事・評議員 26名

③ 会費納入状況 (H29.3.31現在)

一般会費

地 区	実世帯(戸) (H28.4.1現在)	自治会 加入世帯	会 員 戸 数	金 額 (円)
八 田	2,804	2,001	1,729	1,729,000
白 根	7,576	5,597	4,640	4,639,200
芦 安	155	154	117	117,000
若 草	4,658	2,959	2,700	2,700,000
櫛 形	7,076	5,540	4,609	4,605,700
甲 西	4,810	3,562	2,994	2,994,000
その他			5	5,000
合 計	27,079	19,813	16,794	16,789,900

賛助会費/特別会費納入状況 (H29.3.31現在)

区分	会員数	口数	金額(円)
賛助会費	39名	54口	54,000
特別会費	3団体	3口	15,000
合計			69,000

④ 職員研修

実施主体	内容	参加者数
全社協 市町村職員研修 山梨県社協 他	・社会福祉従事者傾聴能力向上研修 ・社会福祉従事者仕事に必要なプラン設計と自己管理研修 ・雇用管理責任者研修 ・事業マネジメントシート活用方法研修 関東ブロック郡市町村社協職員合同研究協議会(新潟) 福祉サービス苦情解決事業研修会 年末調整研修 マイナンバー研修 社会福祉法人制度改革研修 市区町村社会福祉協議会管理職員研修 社会福祉協議会活動全国会議 ・社会福祉協議会 全国会議 ・災害ボランティアセンター運営者研修会 ・コミュニティーオーガナイズングジャパン	延べ44名
山梨県警	・運転管理者講習	3名

⑤ 内部研修

研修日	内容	講師	参加者
7月27日	メンタルヘルス研修	社会保険労務士 塚原正明氏	35名
11月16日	社会福祉法人制度改革研修	福祉経営コンサルタント 手塚斉氏	39名
2月17日	リスクマネジメント	山梨県介護福祉士会 原藤愛先生	36名
2月23日 27日	生活支援体制整備協議体の必要性について	第1層生活支援コーディネーター 齋藤節子氏	38名
3月28日	災害ボランティア伝達研修	地域福祉課	32名

⑥ 事故・苦情・ヒヤリハット報告

事故(車両を含む)	苦情	ヒヤリハット	合計
40件	8件	6件	54件

苦情の内容及び対応・結果の概要（8件）

区分	内容	対応・解決結果等
苦情	ヘルパーについての苦情:ヘルパーが来ない。誰でも良いから来てほしい。 ケアマネジャーへの苦情:ヘルパー訪問に併せて訪問してくる。ゆっくり話したい。ヘルパーへの苦情に対して不満があれば事業所は変更できると発言され不快に思った。	ヘルパーについて:本件は担当出来るヘルパーが1名しかいなかった。本件に関わらず、1名の利用者に対しヘルパーを複数確保する。 ケアマネジャーについて:利用者、ご家族の状況変化、本当の気持ち等について丁寧にアセスメントする。
苦情	「手をつなごう」8月号に交流会担当の職員が、出演の落語家の写真を許可なく掲載。また、演目も独断で決め掲載した。	別件で本人に連絡した際発覚。落語家ご本人に謝罪する。
苦情	「手をつなごう」8月号に、団体名を誤って掲載した。	団体のメンバーから連絡があり発覚。メンバーおよび代表者へ謝罪する。
苦情	自宅の電話番号が社協地域福祉課の電話番号と似ているため以前から間違い電話が多い。昨日もあった。間違った記事が載ったこともあった。	謝罪し再発防止に努める。
苦情	利用者訪問時、庭に停車していたがご家族が車を出すために隣の農協の敷地へ移動。農協の敷地に停めるのは不適切ではと農協の利用者から社協事業所へ電話で苦情があった。利用者宅に車を移動する。(当初、電話はしゃきよんの家にて受付)	電話連絡を受けた時点で車へ戻り、その場で謝罪をして車を利用者宅の庭へ移動する。訪問後、建物の中にいらっしまったため、再度謝罪に伺い次回からはないようにすることを伝える。
苦情	デイ利用者を自宅敷地内(砂利)で介助者と運転手で移動しようと車いすのフットレストを持ったところ、可動式の為左足がフットレストごと持ち上がってしまった。すぐに謝罪し元の位置に戻したがご主人に怒られてしまった。帰所後職員から報告がなくケアマネジャーからの連絡で知る。	事実確認後直ぐに利用者宅へ連絡し謝罪する。次回から気を付けてくれれば良いですとのことであった。福祉用具の取扱について確認するとともに、どんな意見でも承ったら、管理者に報告するよう職員に徹底する。
苦情	被後見人の口座のある金融機関から、「死亡した翌日に後見人(社協)が出金している、死亡したら代理人でなくなる。普通預金を「0」円にすることは疑われても仕方ない。裁判所が許可した書面はあるのか?現金化したお金の保管場所は?」などの苦情(確認)の電話がある。	民法の改正で死後の出金について現在は合法。裁判所書記官からは、領収書があれば現金化に関しては問題はないが必要以上の出金は控えるべきだったのではないかとの意見があった。今後は、最低限の出金でもまず金融機関に相談、凍結された場合裁判所から解除命令を出してもらうこととする。

⑦ 福祉バス運行事業

	運行回数 (温泉)	乗車人数 (温泉)
櫛形福祉バス	1 2 2 (4 7)	1, 8 2 2 (3 5 5)
若草福祉バス	1 9 1 (1 2 8)	1, 6 8 5 (4 4 9)
計	3 1 3 (1 7 5)	3, 5 0 7 (8 0 4)

⑧ 広報活動（会費・共同募金）

- ・社協だより発行 年2回（7月1日・2月1日） 総配布 20,740部
- ・ボランティアじょうほう「手をつなごう」毎月1日発行 総配布 20,740部
- ・ホームページ設置 ホームページアドレス (<http://www.minami-alpsshakyo.or.jp>)
- ・マスコットキャラクター「しゃきよん」桃源郷マラソン・各福祉イベント出場

⑨ 福祉大会の開催（会費）

- ・日時 平成28年11月13日（日） 橿形生涯学習センター
参加者300名
- ・内容 表彰 民間社会福祉施設、団体役職員功労表彰 1名
民生委員・児童委員功労 5名
金品寄附・労力提供 2名
福祉ポスター入賞者 11名 金婚祝い贈呈 31組
- 講演 『未来に伝えたい南三陸』佐藤慶治氏（震災当時高校生）

2 指定管理施設及び管理施設の管理・経営

施設名	利用人数		
	会議室貸出等	通所E	合計
白根げんき館	1,600	1,784	3,384
若草健康センター	18,548	0	18,548
甲西保健福祉センター	5,215	1,942	7,157

《事業部門》

1 地域福祉活動の推進

第3次地域福祉活動計画2年目の年であった。この計画は、市の地域福祉計画と連動・協働し、地域福祉を推進するため住民や専門機関・団体、障害や課題を抱える当事者が主体的にかかわり、支援する側・される側が、お互いを理解しあい、支え合いながら生きる地域づくりに向けた行動計画である。

平成25年度に取り組みを開始した「ふくし小委員会」は、住民が中心となり、定期的な話し合いをする中で実践に向けた取り組みを進めてきた。一方で、公的サービスの縮小や急激な少子高齢化など、社会情勢が大きく変わる中でも、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせる仕組みをつくるための「生活支援体制整備協議体」への取り組みが全国的に進められている。これは、社協が取り組んできた「ふくし小委員会」「ふくし井戸端会議」と目的が同じことから、すでに取り組み始めていた八田、若草北地区以外でも、市の生活支援コーディネーターと協力し取り組み始めているところである。取り組み単位を小学校区と決め、29年度中には旧町村ごとに1地区の設置を進めていく予定で、28年度はそのための準備を中心に行った。

また、住民一人ひとりが自分事として捉える視点や、住民同士のお互い様の気持ちと行政や社協などとの連携と役割分担の共有を図ることを目的とし、28年度も実際に市内で起きている問

題を事例として、住民を対象にした「ふくし勉強会」を5回開催した。ゴミ屋敷・外出困難・貧困・地域の繋がりなどについて学びを深めた。27年度から継続して開催したことや、テーマを変えたことで、それまで参加しなかった住民の参加もみられ、決して他人事でないこととして気づきの視点をもてる人を増やすことが出来たのではないかと考える。参加者からは「自分にできる事をやっていきたい」との声があがり、3月には実際のサービス提供にむけた研修会を開催した。29年度はサービス提供者の養成講座を行い、生活の中の小さな困りごとを解決する仕組みのひとつとしてスタートする予定である。

今後も「誰もが自分らしく安心して暮らせる地域」を目指し、「早期発見・早期解決・予防」に向けた地域づくりの取り組みや個別支援から見える地域課題をもとに小学校区における「地域で話し合える場」を作り、住民とともに考え、協働で地域づくりを進めていく。

① 職員の質の向上

研修日	内容	参加者
6月 3日	読まれる広報誌の作り方研修（県社協）	1名
7月 21日	社会福祉従事者の仕事に必要なプラン設計と自己管理研修（県社協）	1名
10月18・25日 11月1・8日	甲斐の国・防災リーダー養成講座	1名
11月 6日	山梨県地震防災訓練における災害ボランティアセンター設置・運営訓練	2名
11月14日・15日	関東ブロック郡市町村社協職員合同研究協議会	4名
11月15日	小規模自治体における地域包括ケアの推進（厚生労働省）	1名
11月28日	社会福祉施設メンタルヘルス研修（県）	1名
12月 7日・8日	第2回災害ボランティアセンター運営研修（全社協）	2名
1月22日・29日 2月 6日・13日	防災士フォローアップ研修	1名
1月26日	山梨県防災講演会	3名
2月 2日	県社協主催 災害ボランティアセンター担当者会議	3名
2月 7日	山梨県買い物弱者対策情報交換会（県）	3名
2月14日	生活支援コーディネーター意見交換会（県・県社協）	1名
2月21日・22日	社会福祉協議会活動全国会議及び住民主体の地域包括ケア推進セミナー（全社協）	3名
2月27日	生活支援コーディネーター養成・スキルアップ研修会（県）	5名
3月23日	平成28年度市町村社会福祉協議会ボランティア担当者研修会	1名

② 各関係機関の依頼による講師

●防災講話 自治会、学校、サロンなどへ防災講話を実施

実施回数	24回	延べ参加者数	2,271名
------	-----	--------	--------

●ボランティアについて 各種団体へ説明

実施回数	4回	延べ参加人数	151名
------	----	--------	------

●サロン説明 各種団体へ説明

実施回数	1回	延べ参加人数	8名
------	----	--------	----

③ 相談援助実習生受入

学 校 名	受け入れ期間	人 数
山梨県立大学【3年】	8月16日～9月16日	2名
山梨県立大学【2年】	10月3日・17日・24日・31日	64名
健康科学大学【3年】	8月8日～9月20日、1月16日～2月24日	3名
計		69名

④ ふれあい生き生きサロン（会費・共同募金）

サロン助成金対象 56サロン
 研修会の開催 2回 1,031名

●高齢者サロン

開催箇所数	56箇所
開催回数	853回
参加者延べ人数	14,523名

●子育てサロン

開催箇所数	1箇所
開催回数	15回
参加者延べ人数	182名

●障がい者サロン

開催箇所数	2箇所
開催回数	31回
参加者延べ人数	319名

⑤ 福祉運動会（会費・共同募金）

地 区	開 催 日	会 場	参加者数
八田地区	10月8日	すぱーく八田	164名
白根地区	10月12日	すぱーく白根	432名
芦安地区	9月17日	芦安小学校校庭	200名
若草地区	10月14日	若草体育館	174名
甲西地区	10月22日	甲西体育センター	184名
合 計			1,154名

⑥ ふくし小委員会・ふくし井戸端会議の開催（会費・共同募金）

（市開催芦安みらいサロン参加含む）

地 区	開 催 日	テ ー マ	参加者数
八田地区 (小委員会)	6月29日	今後の活動について、世帯カード更新について、災害ボランティアセンター設置運営訓練について	10名
	7月29日	世帯カード更新PRについて	12名
	9月 8日	意見交換会、協議体について	6名
	10月14日	災害ボランティアセンター設置運営訓練について、今後の活動について	14名
	11月18日	協議体の目的・プロジェクトの目的の摺合せ、2/19のフォーラムについて	16名
	12月 8日	2/19フォーラムのスケジュール&台本の確認、通知送付先の確認	20名
	12月27日	2/19フォーラム（寸劇）打ち合わせ	17名
	1月13日	2/19フォーラム 当日までのスケジュール確認および寸劇の練習	15名
	2月 1日	〃	20名
	2月15日	〃	20名
	2月19日	「あったか ゆるやか ささえあい」フォーラム	178名
	3月 2日	2/19フォーラムのアンケート集計確認、来年度の活動について	22名
	3月23日	来年度の活動と運営について、プロジェクトメンバーについて	23名
	若草北地区 (小委員会)	7月 4日	事前打ち合わせ
7月26日		アンケート振返り、協議体とは	11名
1月30日		【新体制】協議体とは、自己紹介	18名
2月22日		協議体への質問、今後方向性について	17名
若草南地区 (小委員会)	11月 1日	事前打ち合わせ	5名
	11月 9日	自己紹介、メンバー選出について	8名
	12月13日	事前打ち合わせ	5名
	12月14日	役割決め、会ネーミング決め	11名
	1月12日	浅原地区話し合い	7名
	1月30日	事前打ち合わせ	11名
	1月31日	協議体について	12名
	2月17日	事前打ち合わせ	5名
	2月20日	協議体PR・周知について	12名

曲輪田地区 (井戸端)	5月21日	個別課題(認知症)から地域のつながりや話し合いの場について	4名
	6月18日	認知症を地域で理解する方法検討	4名
	7月16日	認知症講座について検討	7名
	9月17日	認知症講座実施、地域人材把握	9名
	10月15日	認知症講座からの徘徊訓練実施方法の検討	9名
	12月17日	要支援者支援体制の整備	9名
下町地区 (井戸端)	11月23日	地域課題(世代間交流の不足)解決策内容の検討	7名
	12月23日	地域課題(世代間交流の不足)解決策内容の検討	8名
	1月26日	地域課題(世代間交流の不足)解決のためのイベント内容の検討	7名
	3月13日	地域課題(世代間交流の不足)解決に向けたイベント内容、実行委員長の選定	9名
枇杷ヶ池地区 (井戸端)	5月25日	要支援者状況把握	3名
	7月27日	支援者会議実施・事業所間連携体制整備	5名
	11月15日	要支援者状況確認	2名
下市之瀬地区 (井戸端)	7月20日	地域の課題検討	4名
	9月28日	課題の情報共有	5名
	12月7日	課題(引きこもり)支援方法検討	5名
	3月28日	課題(地域団体の衰退)活動状況共有	6名
芦安みらい サロン	5月24日	新たな企画提案、芦安振興事業について	10名
	10月25日	芦安で新生活を始めた方との情報交換、芦安振興事業について、芦安の生活文化・慣習の聞き取りについて	14名
	11月15日	ふるさとの文化を守り伝える、鳥獣被害対策について	19名
	2月28日	集落支援員について、	9名
	3月24日	芦安郷土食「しょうゆの実」普及計画、有害鳥獣追い払い計画	10名
湯沢地区	11月22日	協議体に向けた話し合い	6名
	1月10日	協議体に向けた地域への説明会	30名
下宮地地区 (甲西)井戸 端会議	4月12日	下宮地の要支援者についての情報共有	4名
	6月7日	下宮地の要支援者についての情報共有	5名
	8月9日	下宮地のこれからの課題について	7名
	2月7日	下宮地の要支援者についての情報共有	7名

東南湖地区 (井戸端会議)	4月 8日	東南湖の要支援者についての情報共有	6名
	5月13日	東南湖の要支援者についての情報共有	5名
	6月10日	東南湖の要支援者についての情報共有	4名
	7月15日	東南湖の要支援者についての情報共有	4名
	8月19日	民生委員の全ケースの共有	6名
	10月18日	東南湖の要支援者についての情報共有	5名
西南湖地区 (井戸端会議)	5月26日	西南湖の今後の課題について	5名

2 在宅福祉活動の推進

① 社協独自事業

●おやつサービス（会費）

80歳以上のひとり暮らし高齢者等に手づくりおやつを配食し安否確認

実施回数	82回	延べ利用人数	7,943名
------	-----	--------	--------

●通院サービス（補助金）

おおむね65歳以上の一人暮らし高齢者等で通院手段のない方（非課税世帯）

登録者数	53名	延べ利用人数	819名
------	-----	--------	------

●福祉機器等貸し出し事業（会費）

- ・車椅子車両 376件
- ・車椅子 91件
- ・高齢者疑似体験セット 5件

② 介護福祉課委託事業

●通所型サービスE事業（介護認定を受けていない65歳以上の方）

	実人数	延べ利用人数	備 考
八田地区	21	870	1 箇所
白根地区	44	1,784	1 箇所
芦安地区	7	224	1 箇所
若草地区	46	2,757	4 箇所
甲西地区	55	1,871	1 箇所
計	173	7,506	8 箇所

●食の自立支援事業（おおむね65歳以上の虚弱一人暮らし高齢者）

実人数	延べ利用食数	備 考
83名	11,628食	365日対応

●芦安通院サービス事業（おおむね65歳以上で通院手段の無い方）

登録者数	17名	延べ利用人数	155名
------	-----	--------	------

●生きがいと健康づくり講座

講座名	回数	延べ参加者数
絵手紙教室（初心者）	9回	52名
絵手紙教室（経験者）	9回	70名
民踊教室	10回	193名
カラオケ教室	9回	17名
フラダンス教室	10回	473名
健康料理教室	8回	145名
発表会（当日参加者数）	1回	110名
認知症予防教室	3回	42名
合計 6講座・7教室・発表会	59回	1,102名

●介護支援ボランティア・ポイント制度事業

登録者数	93名	延べ活動回数	959回
活動受入施設	38カ所	在宅支援数	9名
ポイント活用申請者数	52名	合計ポイント数	1,370

開催日	研修内容	参加者数
5月11日 7月5日 12月14日	養成研修	157名
6月8日 7月12日 8月29日	活動事前学習	73名
10月26日・31日	施設見学研修	44名
3月15日	フォローアップ研修	31名

3 援護対策事業（補助等）

●利子補給事業（補助）

生活福祉資金利子補給事業	0件
居室整備資金利子補給事業	0件

●社会福祉金庫貸付事業

貸付	50件	2,724,095円
新規貸付	9件	705,000円
償還	25件	687,000円
償還完了	11件	

●生活福祉資金貸付事業

新規貸付	1件	1,464,000円
------	----	------------

●居室整備資金貸付事業 0件

4 啓発事業

ボランティアじょうほうの発行（会費・共同募金）広報活動に含まれる

ボランティアじょうほう「手をつなごう」 毎月発行 新聞折り込み 20,400部
市内情報誌配布 66ヶ所 市内ボランティアボード 20ヶ所

5 ふくし相談支援センター（委託）

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）は、生活のしづらさを抱えている一人ひとりに寄り添うきめ細かな相談支援を行い、相談者を必要な支援に繋げたり、住民や関係機関と連携して個別や地域の課題を解決し、住みやすい地域をつくるための活動を行っている。

① 相談件数 実366人 延べ7,503件

相談支援内容	延件数	連携機関	延件数
金銭問題	521	本人	3,406
住居問題	142	同居家族	394
生活問題	4,650	別居家族	230
法律問題	4	地域住民・知人	297
家庭・環境問題	144	民生委員	431
健康問題	830	医療機関	244
労働問題	44	警察・保健所	64
教育問題	10	学校・保育所等	9
就労問題	257	福祉総合相談課（生活保護）	170
介護問題	332	福祉総合相談課（相談支援）	168
その他	569	地域包括支援センター	387
相談経路	件数	社会福祉協議会内	487
本人	40	ケアマネジャー	303
家族	14	障害者相談支援センター	82
地域住民・知人	27	障害者計画相談	49
民生児童委員	48	サービス提供事業所（高・障）	92
医療機関	1	就労準備支援事業所	3
福祉総合相談課	22	企業／NPO	222
地域包括支援センター	27	ハローワーク	18
ケアマネジャー・事業所	18	その他	447
障害者計画相談	3		
企業・NPO	2		
社会福祉協議会内	31		
その他	133		

② 職員の質の向上

内 容	日 程	場所・主催者等
相談支援のプロセス インテーク・アセスメント整理の手法	4月27日	地域包括支援センター
CSW配置事業オリエンテーション	4月14日・26日・5月13日・6月1日	市総合相談課
相談支援の基礎について	5月25日	ふくし相談支援センター
対話を学ぶセミナー	5月21日	南アルプス青年会議所
山梨ダルクセミナー「依存症という病」	6月11日	NPO 法人山梨ダルク
社会福祉従事者の傾聴能力向上研修	6月23日	県社協
コミュニティソーシャルワーク実践者養成研修（基礎編 STEP1）	7月9日・10日	日本地域福祉研究所
関東ブロック社協職員合同研究協議会暮らしをつくる～一人ひとりの暮らしを支えるために～	7月14日・15日	新潟県
罪を犯した障害者・高齢者の地域支援・実務者研修	11月25日	山梨県地域生活定着支援センター
コミュニティソーシャルワーク実践者養成研修（基礎編 STEP2）	2月4日・5日	日本地域福祉研究所
ひきこもり支援検討会議	3月 3日	山梨県障害福祉課
コミュニティ・オーガナイズング・ワークショップ	3月11日・12日	コミュニティ・オーガナイズング・ジャパン
アセスメント深める力をつける	6月～9月 2回/月	ふくし相談支援センター
目的を持った支援を行うためのプラン作成	10月～3月 2回/月	ふくし相談支援センター
ケース共有 事例検討	通年 1回/週	ふくし相談支援センター
CSW相談支援基礎研修（新CSW対象）	7月 2回/週 8、9月1回/週	市介護福祉課

③ 啓発活動

啓発活動を行った機関	日 程	内 容
単位地区民生委員児童委員定例会（14地区）	4月～5月	ふくし相談支援センターの事業について
民生委員児童委員	3月 7日	地域ささえ愛セミナー

6 ボランティア事業（会費・共同募金）

社協が活動費を助成しているボランティア団体 41団体
 内訳（20,000円 35団体 10,000円 6団体）

① ボランティア事業

事業名	開催日 回数等	延べ参加者数
夏休みボランティアスクール	8月4日、5日	24名
ボランティア交流会	9月10日	107名
ふくし勉強会ノンフィクション南アルプス	6月16日、9月1日 11月17日、12月21日 1月23日	191名
生活支援サービスについて考える会	3月9日	144名
新規ボランティア団体助成金説明会	3月22日	1団体
サロンボランティア研修	2回	200名
男性ボランティア定例会	毎月1回（第3水）	120名
女性ボランティア定例会	毎月1回（第2火）	100名
話し相手ボランティア定例会	毎月1回（第3木）	156名
ボランティア相談日の開設	毎週1回（水）	15名
ボランティアフォローアップ研修	12月13日、14日	21名
福祉ボランティア活動	22回	38名
花植えゴミ拾いボランティア活動	ゴミ拾い6回 花植え6回	120名
ボランティアセンター利用状況	85回	254名
ボランティア調整件数	毎月10回	120件

② 福祉ポスターの募集（会費・共同募金）

応募数 839点
 特選1点・優秀賞3点・佳作7点 福祉大会において表彰

③ 防災ボランティア育成・啓発活動

事業名	開催日	延べ参加者数
災害・防災ボランティア地区連絡会全体会	5月13日	40名
芦安地区独居高齢者宅訪問	7月31日	20名
夏休み防災ボランティアスクール	8月4日、5日	30名
災害防災ボランティア養成講座	8月26日	68名

防災訓練職員派遣（1地区）	9月 4日	150名
災害ボランティアセンター設置運営講座	11月18日、27日	128名
藤田地区避難所、災害ボランティアセンター訓練	計7回	300名
防災ボランティア意識啓発活動	3月11日	27名
災害・防災ボランティア地区連絡会役員会	5回	35名

7 各種団体等との連携

① 市老人クラブ連合会事務局

・正副会長会議 2回 理事会 5回
市老人クラブ連合会事業

・ゲートボール大会・グランドゴルフ大会・囲碁大会・講演会・高齢者作品展・芸能発表会・理事交流会・単位クラブリーダー研修会

② 山梨県共同募金会南アルプス市支会事務局

●配分金事業

事業名	事業内容	配分額（円）
地域社会福祉事業（A4）	福祉ポスターの募集 学校での福祉教育	737,000
	地域福祉活動計画評価事業	100,000
あったかサービス事業（A6）	ふれあい生き生きサロン実施事業	900,000
地域における防災・減災のまちづくり事業（A7）	地域への防災・減災の啓発活動など	300,000
みんなで地域をよくする事業（A7）	一次相談事業・ふくし小委員会	313,324
市町村社協地域福祉活動事業（B1）	ボランティアだより発行	2,500,000
	福祉運動会開催事業	988,040
小地域福祉活動事業（B2）	甲西ふるさとまつり助成	600,000
地域福祉活動団体推進（B3）	ボランティア団体育成事業	650,000
歳末たすけあい事業（C）	学用品支援事業	100,000
計		7,188,364

●街頭募金活動

10月3日（月） 社協理事・ボランティア・福祉施設・職員により市内8カ所において実施

8 成年後見センター

判断能力は低下しているが契約能力のある方が対象となる「日常生活自立支援事業」と本人に代わって契約行為や財産管理を行う「成年後見」を行っている。また権利擁護に対して研修や啓発活動を行うなか、成年後見市民講座の研修を修了した市民生活支援員も平成29年度には3名加わり9名が活動している。そのうち2名は市民後見人の活動を予定している。市民の関心は高まっているが、潜在的ニーズの発見やつなぎには今後も研修や啓発活動が必要である。

① 後見センター委員会関係

委員会名	回数	備考
成年後見センター運営委員会 (日常生活自立支援事業推進委員会兼ねる)	3回	センターの事業内容等方向性について検討
後見業務検討委員会	3回	後見受任の可否・支援内容等の検討

② 人材育成

内容	日程	備考
日常生活自立支援事業生活支援同行訪問	6日間	28年度講座受講者
成年後見市民講座	7月27日 8月10日 8月17日 8月24日 9月7日	成年後見制度・日常生活自立支援事業について 参加者21名 個別面接

市民生活支援員9名 担当人数 後見2名 日常生活自立支援事業19名

③ 日常生活自立支援事業契約件数推移（福祉サービス利用援助事業・県委託事業）

平成28年度契約件数	9件	認知5 知的0 精神3 その他1
平成28年度終了件数	10件	認知6 知的3 精神1 その他0
契約件数	79件	認知26 知的28 精神22 その他3
延べ相談支援回数	8,538回	担当者会議含む

④ 法人後見関係受任件数推移

平成28年度受任件数	2件	後見1 保佐1
平成28年度終了件数(死亡)	2件	
受任件数	10件	後見8 保佐2
延べ相談支援回数	976回	担当者会議含む

- ⑤ 新規相談 63件 ・ 後見関係16件
 ・ 日常生活自立支援事業関係29件
 ・ 相談日開設 毎月1日 相談日相談11件

⑥ 研修・啓発活動

内 容	日 程	場所・主催者等
事例検討会職員研修【講師】	4月20日	白根聖明園
本人中心の支援と虐待【講師】	4月28日	慈恵寮職員研修
居宅介護支援と成年後見制度【講師】	5月11日	ほほえみの会定期総会
制度改定内容について【講師】	5月17日	生活支援員勉強会
わかった！成年後見制度【講師】	7月 2日	介護福祉士会
家庭裁判所連絡会議【参加】	7月11日	後見業務関係機関
パンフレット配布【啓発】	7月15日	市内郵便局
金融機関との連絡会議【参加】	7月19日	金融機関事務担当と専門員
生活支援員研修会【参加】	8月23日 25日	社協職員及び生活支援員
成年後見制度について【講師】	8月26日	あやめいきいき大学
パンフレット配布【啓発】	9月14日	市ケアマネ、通所部会
社会福祉協議会について【講師】	10月24日	山梨県立大学2年生
市民後見人育成事業への取り組み【参加】	11月18日	成年後見センターリーガルサポート
お金の使い方について【講師】	11月20日	障害者就業・生活支援センター
組未加入から考える地域の繋がり【講師】	1月23日	ノンフィクション南アルプス
春日井市権利擁護センター視察【参加】	2月 8日	市民後見人について
知多地域成年後見センター視察【参加】	2月 9日	市民後見人について
事例検討会【講師】	2月14日	峡西病院、アルプスファーム、きづな
事例検討会【講師】	3月21日	峡西病院、アルプスファーム、きづな

9 地域交流拠点事業(しゃきよんの家下町)

① 来所者数

種 別	延人数(団体数)	備 考
視察団体	6団体	延べ団体数
昼食提供者	91名	延べ人数
来所者数	1,328名	(デイ利用者は除く)
コミュニティーカフェ(通所介護予防事業)	113名	延べ人数 木・金曜日開催
学生実習受け入れ	3名	社会福祉士実習 3名

② 拠点貸出

内 容	貸出回数	備 考
囲碁クラブ	24回	延べ 96名参加
がん悩み相談	10回	延べ 9名参加

③ 学習会・体験・講演会(イベント)

事 業 名	開催回数	延参加人数	備 考
映画鑑賞	12回	130人	
笑いヨガ・ゆる体操・体操教室 等	36回	432人	
音楽関係講座	38回	472人	
教養講座	48回	110人	歴史、栄養、詐欺、 防災、手芸等
ナイトセミナー	1回	14人	マイナンバーにつ いて

④ 地域との連携

会 議 名	開催日	参加者数	備 考
地域福祉会議	8月23日	8人	民生委員、町内会 長、病院、障害者 支援、社協関係者
下町世代間交流実行委員 会	11月23日 12月23日 1月26日 3月23日	延べ32人	民生委員、老連会 長、病院CM、健 康増進課、サロン 代表、市生活支援 CD、社協

⑤ コミュニティカフェ(通所型介護予防事業)2月より廃止

開催日数	実開催日	対象者名数		一般参加者		備 考
		実数	延べ数	実数	延べ数	
104日	98日	6名	113名	6名	23名	市から受託

10 養護老人ホーム慈恵寮の運営（指定管理）

入所者の高齢化による身体機能の低下や筋力の低下は否めないが、本人のできることに、興味のあることを様々な活動を通して発見し、声掛けや関わりを行なうことで、本人が楽しみや自信、役割を持つような個別支援計画を立て目標達成に向け支援を行ってきた。

介護予防対策として寮内全体では、昼食前の口腔体操やおやつの後に行う軽体操を毎日実施し、クラブ活動の講師の方々とも連携を図りながら、できるだけ多くの入所者が参加できる内容を検討し進めてきた。また、精神に疾患がある入所者も多く専門部署との連携を密にし、より多くの情報を得ることで本人の立場に立った支援に繋げてきた。

介護が必要な入所者については、再アセスメントをし、本人のニーズにあった支援を職員間で検討したうえで介護保険サービスに繋げている。それに伴い、当たり前のことではあるが、職員も社内外研修に積極的に参加しスキルアップに努めてきた。

柿平地区との合同防災訓練では、職員が車いすの扱い方を行い、地域の方々と共に学ぶ機会を通してお互いの協力意識を高めることができた。また、今年も「柿平子供クラブ」や「リトルシニア」の子供たちとの落ち葉掃きや、園児や住民との交流運動会など、多くのふれあいを通じ、交流と同時に慈恵寮を周知する機会を設け地域に開かれた施設を目指してきた。

指定管理の最終年度であった平成28年度は、入所者減の中で人件費の見直しや行事の検討、経費削減に職員一同が取り組み、成果が見える決算となった。

施設の老朽化、入所者の減少、要介護状態や精神疾患等の入所者の増加などの課題も含め、今後市の方向性をみながら、慈恵寮の在り方を引き続き検討していく。

① 現況（平成29年3月31日現在）入所者数 35名（50名定員）

・月別入所者数（H28.4～H29.3）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
37名	36名	36名	36名	36名	36名	36名	36名	35名	35名	35名	35名

・職員数 14名 施設長1 施設運営係 係長兼生活相談員1
生活相談員1 支援係 係長1 栄養士兼支援員1
看護師2 支援員6 洗濯業務1

・学生実習受け入れ 4名（8月県立大2名・1月健康科学大学2名）

研修日	内容	参加者
4月21日	救急救命講習会（職員・入所者・厨房対象）	10名
4月21日	新職員対象感染予防研修（寮内）	3名
4月25日	施設従事者のための虐待について（寮内）	10名
7月6日	食中毒の予防と衛生管理、施設給食の在り方	1名
7月27日	メンタルヘルスを学ぶ（社協内）	3名
8月8日	認知症講座（寮内）	8名
8月22日	給食施設における衛生管理等（中北保健所）	1名
9月8日	モチベーションアップ研修	1名
9月7日 10月12日	現任職員研修（精神面でのセルフケア、精神障害への理解と対処）	2名
11月9日	主任指導員研修（職員育成の考え方・態度と行動の啓発）	1名
11月22日	感染症対策委員会（寮内）	8名

11月22日	事故防止委員会（寮内）	8名
11月28日	コストコントロールについて（寮内）	7名
10月14日	腰痛予防対策講習会	1名
11月16日	社会福祉法人制度改革研修（社協内）	3名
12月21日	排泄ケアにおける感染対策（寮内）	5名
1月19日	虐待防止・権利擁護基礎研修	1名
1月24日	人材育成研修～リハビリテーションの視点から「できる力」をみつける～	1名
1月26日	口腔の健康管理と嚥下障害のケア	1名
2月9日	精神障害について（寮内）他課参加	13名
2月16日・2月20日	介護職員指導者研修	1名
2月17日	リスクマネージメント（社協内）	3名
3月8日	介護の現場で予想される病気・事故 その予防と対応	1名
3月13日	高齢者のためのアクティビティ	1名
3月16日	高齢者居住系施設における看取り研修会（中北保健所）	1名
3月28日	災害ボランティアセンター研修（社協内）	3名

- ・施設内研修 8回 ・社協内研修 4回 ・施設外職員研修 延12名
- ・中北保健所研修 2名 ・意見箱への投書 3回

② 主な実施工事

月 日	事業内容	月 日	事業内容
4月 7日 21日 26日	慈恵寮でのお花見 救急救命講習会 ひまわりの種の袋詰め	10月4日 8日 8～10日 12・18・ 19・20日 25日	誕生会（7. 8. 9月） 橿形地区文化祭作品搬入 文化祭出展 あなたの希望叶えます（4日間） 交流運動会（柿平いきいきクラ ブ・中央保育所・近隣住民）
5月 7日 17日 31日	アヤメまつり参加 バーベキュー大会 春レク（清里方面）	26日 30日	アルプスハーモニー慰問 キャンディーステーション実施
6月 8日 6月 9日 12日 14日 22日 23日 28日	春の花植え 体協舞踊部の慰問 柿平第2地区との合同防災訓練 講習会（車いすの扱い方） 春レク さくらんぼ狩り 山田亭お蕎麦ボランティア来寮 手作りおやつ（フルーチェ） 誕生日会（4, 5, 6月生）	11月2日 5日 9日 13日 15日 16日 18日 22日 22日 26日	手作りおやつ（安倍川だんご） 柿平子供クラブと落ち葉掃き インフルエンザ予防接種 秋の花植え 市議会選挙期日前投票参加 愁柳会慰問（カラオケ・舞踊） 市長100才表敬訪問 秋レク（紅葉めぐり、オーチャードにて食事、買物） 橿形図書館読み聞かせ 地域との交流（やきいも大会 とマジック）
7月 1日 21日 31日	七夕飾り付け 納涼盆踊り大会 （柿平子どもクラブボランティア で参加・地域住民協力、参加） 橿形荘納涼会参加	12月 5日 7日 8日 10日 22日 26日	防災訓練実施（おやつ非常食） クリスマスツリー飾り付け 居室大掃除 リトルシニア（落ち葉掃きボラ） 誕生会・忘年会 クリスマス会

8月13日 13日 4・17 19・30日 25日 31日	棚経・お盆迎え火 柿平盆踊りへ参加 寮外買物レク 厚生連一斉検診（1回目） 手作りおやつ（ソフトクリーム）	1月10日 12日 14日 27日	市長100才表敬訪問 柿平地区のどんど焼き参加 （団子作り） 信玄ロック桃源訪問 新年会、末苗会の民謡、語り部
9月15日 18日 21日 26日 27日 30日	県100才長寿慶祝訪問 生け花ボランティア来寮 市米寿、市内最高齢慶祝訪問 ぶどう狩り（原田農園） 手作りおやつ（ソフトクリーム） 火災を想定しての夜間避難訓練	2月3日 18・19日 21日 15・26日 3月6日 8日	節分豆まき 小笠原・山寺分館祭り出展 厚生連一斉検診（2回目） 畑の作業 避難訓練 ミニ誕生日会（インフルエンザのため）

※ 誕生会は3ヶ月ごとに実施 12月は忘年会と誕生会を共に開催

※ 毎月講師指導のもとクラブ活動を実施（音楽・書道・華道・ゆる体操・健康体操・舞踊）

《介護保険部門》

1 居宅介護支援事業（ケアマネジメント）

介護認定を受けている利用者の個々の状況に合わせて、利用者主体の居宅介護計画（ケアプラン）作成に取り組んできた。介護サービスの他に、地域関係者や多職種との連携をはかり、地域で暮らす視点でケアマネジメントを行っているため、地域の支援者を含めたケア会議や担当者会議も増えてきた。28年度も特定事業所加算Ⅰを維持することで、経営面の安定も図れたことや、介護支援専門員実務研修の実習受入協力事業所となり、主任介護支援専門員2名を中心に、実習生の計画的な指導を行ってきた。近年利用者1名に対する支援が複雑・多様化していることや、特定事業所としての困難ケースの受け入れ、地域の介護支援専門員を支援する役目も担うため、今後も事業所全体で日々の事例の検討・検証により研鑽を積み、個別の課題解決が地域の課題解決にもつながることを意識していきたい。

新規依頼の相談（年間） 59件 うち支援開始43件
カンファレンス・担当者会議 326件

① 介護保険

介護度	年間利用者数 （延べ）	月平均件数 小数四捨五入
要介護1	751	63
要介護2	710	59
要介護3	427	36
要介護4	351	29
要介護5	158	13
合計	2,397	200

中重度者（介護3～5）の割合は全体の39%となっている。

② 介護予防

介護度	年間利用者数 (延べ)	月平均件数 小数四捨五入
要支援1	17	1
要支援2	136	11
合計	153	12

③ 研修

名 称	回 数
県・南アルプス市主催	15回
県・峡介護支援専門員協会主催	6回
課内研修・自主研修	25回
県市町村職員研修	1回
社協内研修	3回

④ 実習受け入れ

平成28年度介護支援専門員実務研修 3日実習(1月～2月)3名(計9日間)
 県立大学(ソーシャルワーカー)1日実習(8月) 3名(計3日間)
 健康科学大学(ソーシャルワーク)1日実習(1月) 2名(計2日間)

⑤ 研修の演習助手派遣

山梨県介護支援専門員更新研修Ⅱ(山梨県社会福祉協議会)1日(9月)2名

2 通所介護事業(デイサービス)

デイサービスゆうかりは、介護予防運動指導員を配置し予防事業の一環として通所型サービスAの受け入れも行い「歩行浴」の指導にも力を入れてきた。また、「温泉に入れるデイサービス」として周知され、困難事例にも対応してきたが軽度者が全体の7割近くを占め稼働率も低迷し、なかなか収益にはつながらなかった。

デイサービスセンターわかくさは、中重度者や困難事例を積極的に受けるため「職員・看護師の人員体制」を充実させ中重度者ケア体制加算が取れる体制作りにも力を入れ、利用者、家族のニーズに対応すべく朝、夕の時間延長等にも対応してきた。しかし、やはり稼働率の低迷が続き思うような収益には繋がらなかった。

平成28年度から市町村が管轄する地域密着型サービスへ移行したデイサービスしゃきよんの家下町は、町内会全世帯を対象に実施したアンケート調査の結果から、「勤務時間後(夜間)に講演を行ってほしい」という希望を受け、「ナイトセミナー」を開催。特に要望が多かった「マイナンバー制度について」をテーマに学習を行った。

経営戦略として、導入した「基準該当障害福祉サービス」については、ゆうかり、わかくさ両方で1名ずつの受け入れとなっている。高齢者のみではなく誰もが地域住み慣れた地域で暮らせるよう幅広いサービスを展開している。

今後も3事業所それぞれの特徴を活かしながら利用者獲得にも力を注ぎ、地域と連携し地域になくてはならない施設をめざしていく。

① 利用状況

事業所名	定員	年間開設日数	1日平均利用者数	延べ利用者数	稼働率
デイわかくさ	30	310	18.7	5,802	62.3%
デイゆうかり	30	310	22.9	7,122	76.0%
しゃきよんの家下町	10	310	8.85	2,744	88.5%

② 介護度別利用者

事業所	要支援1		要支援2		介護1		介護2	
	延べ人数	延べ回数	延べ人数	延べ回数	延べ人数	延べ回数	延べ人数	延べ回数
デイわかくさ	2	6	7	54	111	1,207	68	1,289
デイゆうかり	0	0	54	369	262	2,715	223	2,179
しゃきよんの家下町	1	13	3	32	75	899	74	889
合計	3	19	64	455	448	4,821	365	4,357
事業所	介護3		介護4		介護5		合計(延べ)	
	延べ人数	延べ回数	延べ人数	延べ回数	延べ人数	延べ回数		
デイわかくさ	103	1,084	104	1,366	50	486	5,492	
デイゆうかり	127	1,285	41	366	13	114	7,028	
しゃきよんの家下町	57	681	0	0	0	0	2,514	
合計	287	3,050	145	1,732	63	600	15,034	

わかくさデイ

* 要支援1・2の内 総合事業 延べ人数 24名 延べ回数 195回

* 基準該当障害福祉サービス 延べ人数 12名 延べ回数 115回

デイゆうかり

* 要支援1・2の内 総合事業(通所型サービスA) 延べ人数 2名 延べ回数 18回

* 基準該当障害福祉サービス 延べ人数 12名 延べ回数 94回

③ 年間の主な行事

- ・お花見会 ・保育園児との交流 ・夏祭り ・おやつづくり ・紅葉狩り
- ・クリスマス会 ・節分会 ・誕生会 ・学童との防災訓練 ・地域住民の交流
- ・福祉運動会への参加 ・小学生との交流 日帰り行楽(自主事業)
- ・1年間ご利用者さんへ写真アルバム(デイでの活動様子)プレゼント
- ・映画鑑賞・子育てサークルとの交流会

④ ボランティア協力状況

事業所	定期的なボランティア数	訪問ボランティア団体数	訪問ボランティア回数
デイわかくさ	延べ 608人	18	137
デイゆうかり	延べ 110人	25	105
しゃきよんの家下町	延べ 539人	6団体他個人	383

⑤ 研修会

研修名	内 容	参加者数
介護福祉士実習指導者養成講習会(山梨県介護福祉士会)	介護福祉士実習指導者研修	1名
地域包括ケア推進セミナー	介護サービス事業の戦略的経営について	1名
感染症対策講座	レジオネラ感染症	2名

南アルプス市セミナー 事業所部会研修	全体研修（権利擁護について 他）小規模部会研修会（地域密着事業について）、通所部会（認知症 他）、ソーシャルワークセミナー	11名
社協職員研修	CSW視点を持つための事例検討会・リスクマネジメント研修・メンタルヘルス研修・防災危機管理研修	24名
介護職員指導者研修	介護の現場で予想される病気・事故	1名
管理者研修	施設管理者の姿勢	1名
虐待基礎研修	在宅支援者・施設従事者向け	2名
高齢者権利擁護研修	高齢者の権利を守る支援について	1名
峡北・南アルプス地域在宅 医療多職種人材研修会	緩和ケアについて学ぶ	1名
介護セミナー	ボディメカニクス基本講座・車椅子の移乗方法	8名
介護職員実務者研修	口腔の健康管理と摂食嚥下障害のケア クレーム対応・介護記録の書き方 基礎編、他	3名
山梨県老人福祉施設協議 会	介護職員初任者研修・社会人としての心構えや 基本的なマナーを身につける	1名
市主催 多職種合同意見交換 会・権利擁護	実施報告と各々の立場で考えるチームケア	4名
若年性認知症研修	山梨県における若年性認知症の現状と課題・実践報告	1名

実習受け入れ

インターシップ（若草中）2名

甲斐清和高（施設実習）1名

優和福祉専門学校（介護福祉士養成）2名

社会福祉士実習生（県立大学）1名（健康科学大学）3名

3 訪問介護事業（ホームヘルパー派遣）

介護を必要とする高齢者や障害者が住み慣れた地域で、安心してその人らしい在宅生活が送れるよう、介護保険・障害者総合支援法・移動支援事業等によるホームヘルプサービスを実施している。平成27年からの南アルプス市の総合事業として委託を受けていた訪問型サービスA事業は、平成28年からは委託ではなく市の指定事業所として事業運営をしている。すべての事業において、地域包括ケアシステムに向けた「自立支援」「地域で暮らすための支援」「重度者への介護技術の向上」が必要とされ、事業所全体で介護技術の研鑽を積み、地域で暮らしていくための関係者との連携を図り、利用者一人一人の個別課題に向き合って支援していくことに努めている。

① 介護保険事業（要介護・要支援・総合事業訪問型サービス・訪問A）

サービス提供日数	延べ利用者数
365日	1,464人

② 障害者総合支援事業（居宅介護・重度訪問介護・同行援護）

サービス提供日数	延べ利用者数
365日	647人

③ 地域生活支援事業（移動支援）委託事業

登録利用者数	25名	延べ派遣回数	1271回
--------	-----	--------	-------

④ 制度外サービス

年間延べ利用者数(訪問回数)	18名(54回)
----------------	----------

⑤ 養育支援訪問事業 委託事業

利用件数	0件	派遣回数	0回
------	----	------	----

⑥ 研修会

研修名	内 容 ()内は参加人数	参加者数
事業所内部研修会	・ヘルパーマニュアル、緊急時(35)・市の総合事業(7)・「ケアプラン・個別支援計画書の見方」(6)・訪問A調理実習(7)・訪問A支援員の業務内容と留意点(7)・同行援護の基礎(35)・食中毒(27)、感染症(35)・総合事業(7)・居宅支援課合同事例検討会5回(25)・「事例検討会の基礎」鈴木伸治講師(5)・集団指導伝達研修(感染症、介護保険)(6)	202名
市訪問部会・居宅部会	・トランスファー(15)・障害福祉サービス計画相談との連携(2)	17名
介護福祉士会	・認知症予防(2)・介護技術講座(2)	4名
専門研修	・同行援護研修、基礎編(2)応用編(1)・サービス提供責任者研修(1)・実習指導者研修(1)・実務者研修(1)・難病疾患等ホームヘルパー養成研修(1)・介護職員等喀痰吸引基礎研修(1)、障害福祉従事者基礎研修(2)・福祉有償運送運転者講習会(1)	11名
全社協	・市区町村社協介護サービス研究会研修「住民主体の地域包括ケア推進セミナー」(1)	1名
県社協・全社協	・記録の書き方(1)・困難事例研修会(1)	2名
山梨県	・介護サービス事業者集団指導(1)・障害福祉サービス集団指導(1)・高齢者いきいきライフパートナー(3)、介護職員指導者研修(4)	9名
南アルプス市包括・福祉	・虐待防止権利擁護基礎研修(3)・在宅療養連携(2)・地域福祉セミナー(1)・地域ささえ愛セミナー(1)	7名
社協内全体研修	・メンタルヘルス(7)・トランスファー(11)・防災サテライト運営訓練(5)・協議体について(6)・リスクマネジメント(4)・防災ボランティアセンター研修(4)	37名
その他	・雇用管理責任者講習(1)・雇用管理セミナー(1)・防災(楡形西地区)(1)・山梨県防災リーダー(1)	4名

⑦ 講師派遣

- ・ 6月24日・12月14日 介護職員実務者研修「介護の基本Ⅱ」
(山梨県就業支援センター主催) 帝京科学大学山梨市キャンパス
- ・ 10月9日 南アルプス市視覚障害者福祉会「同行援護及び移動支援についての研修会」
南アルプス市市民活動センター
- ・ 10月11日・18日 訪問介護適正実習研修事業「サービス提供責任者研修」
(山梨県長寿介護課主催) 介護実習普及センター
- ・ 11月25日 白根飯野小学校福祉授業「認知症について」

⑧ 訪問介護実習等の受け入れ

4校 11名 (15日間)

優和福祉専門学校(介護福祉士)1年生	1日見学実習1名(6月)	(計1日間)
2年生	4日間実習2名(9月)	(計4日間)
帝京福祉専門学校(介護福祉士)2年生	2日間実習3名(11月)	(計6日間)
県立大学(ソーシャルワーク)	1日間実習2名(8月)	(計2日間)
健康科学大学(ソーシャルワーク)	1日間実習3名(8月・1月)	(計2日間)

